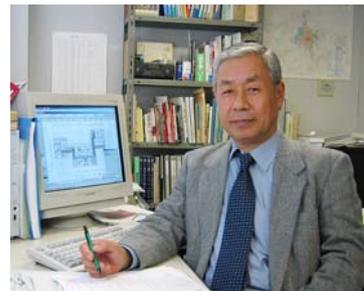




# 例会報告

第 2 6 3 0 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1 9 6 6 年 1 月 1 5 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 大垣共立銀行 高山支店 4 F
- 会長 山下 明
- 幹事 寺田 昌平
- 会報委員長 堀川 和士



ロータリー情報委員長 脇本 敏雄

## ＜会長の時間＞ マツタケのルーツについて

◎マツタケのルーツは中国であることを知っていますか？



・雲南省、四川省の 2000～3000m の山で採れるのです。しかも松林ではなく、ブナやコナラ科の樹木である広葉樹にマツタケが生えている。これがマツタケの原始型なのです。

◎マツタケの 90%以上は外国産です。

・輸入量は年間 2000 t 以上、国内収穫量は 50～100 t 程度といわれています。海外 10 カ国から輸入で、60%は中国産、そして北朝鮮、韓国、カナダ、アメリカ、モロッコ、トルコ、メキシコ、ブータン、タイ（タイを経由するだけで中国産とのこと）

◎日本のマツタケが激減してしまった原因

- ・マツクイ虫による松枯れ
- ・松の木を薪として利用なくなり、松林が栄養過多になり、マツタケは菌根性キノコであるので、林床が落葉で栄養過多になることで、腐生性キノコが繁殖して競合に負けてしまった。

◎マツタケは日本人以外ほとんど食べない。

・日本人以外は、あんな強烈で嫌なニオイのするキノコをよく食べるなあということです。

その証拠に、そのマツタケの国際的学名は *Tricholome トリコロマ* (キシメジ科) *nauseosum* ナウゼオスム と言いまして、*nausea* というのは吐き気をもよおすという意味です。

欧米ではマツタケの香りは、数カ月も風呂に入っていない不潔な人の臭いとされてスウェーデンで 1905 年に上記の学名が付けられました。

・1925 年に日本のマツタケは *Tricholome Matutake* として名付けられ、欧米とは違った種と思われてきましたが、1994 年にまたまたスウェーデンでヨーロッパ産のマツタケも、中国、日本を含むアジアのマツタケも DNA 解析で同一とされ、先行に記載された学名が優先されるので、*Tricholome nauseosum* が正式名で、*T・Matutake* は保存名として残っているのです。

◎マツタケのルーツは中国の雲南省、四川省なのです。

・緯度からいうと、亜熱帯で 1500～3000m の高い山で、しかも広葉樹の原始型の生き残りのブナやコナラ科の樹木の菌根性キノコとして分布している。

マツタケが進化～分化していく方向として、南下する方向だと、腐生性キノコと競合して負けてしまうのと、最適生育温度が 22～25℃ということなので、種の戦略として当然北の方へ分化する道を選んだのだらうと推測されます。

結果としてブータン→北朝鮮、韓国、日本→そしてカナダ、アメリカ、メキシコへ松を中心として（一部サワラ、杉の木もある）針葉樹を宿主として選択し、拡大したと考えられています。

・中には、先祖返りのような種もあって、ミズナラ、コナラなどの広葉樹でマツタケより 2 ヶ月ほど早く発生するので、気の毒にバカマツタケ（学名 *Tricholome bakamatutake*）と呼ばれる日本特産のマツタケもあります。

・いずれにしても中国のマツタケも日本のマツタケも、ユーラシア大陸のマツタケも北アメリカ、中南米のマツタケも DNA 解析では、同種であることが分かってきたのです。

・このようにマツタケの DNA による分子系統解析を行うことで、どのように世界に分化し分布していったかが判明されてきているのです。

◎これからはマツタケの土瓶蒸しやマツタケご飯を食べられる時には

マツタケのルーツと宿主を代えながら、分化してきたマツタケのしたたかな戦略に思いをはせて頂きたいと思います。

## ＜幹事報告＞

＜例会変更＞

高山 …11月14日(木)は、  
紅葉同伴例会のため  
18:30～ ホテルアソシア高山リゾート に 変更



## ＜出席報告＞

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	39名	6名	45名	50名	90.00%
本日	38名	—	38名	50名	76.00%

# 例会報告

## <本日のプログラム>

## ニコニコ委員会

委員長 内田 幸洋

本日のゲストスピーチは、清水 喬雄 様をお願いしております。

清水さんは昭和 19 年生まれ、昭和 42 年に青山学院大学経済学部をご卒業され、現在 株式会社ふとんの清水屋 代表取締役会長としてご活躍されると同時に、高山市郷土研究の第一人者でもあられます。

本日は高山の歴史と文化についての卓話をさせていただきます。どうぞ宜しくお願い致します。



**「飛騨高山 歴史と文化の特異性」私論**  
(株)ふとんの清水屋 代表取締役 会長 清水 喬雄 様  
キーワードは山の民または木の民である。

記録の上で、飛騨が日本の歴史上最初に登場したのは、仁徳天皇65年(西暦377年)「飛騨国に、一人有り、宿儺と曰ふ。」で始まる、奈良時代(西暦720年)に編纂された日本書紀の記述である。江戸時代には「円空」がこの伝説の人物を両面宿儺と名付け、彫刻として千光寺に残し、今日まで伝説は飛騨では様々な形で語り継がれてきた。

西暦420年頃造られたと位置付けられている、国府町広瀬町宇塚腰の亀塚古墳出土の甲冑は、東海地方では出土例がなく、当時既に山国にしては強力な勢力をもった豪族が存在し、古代大和朝廷を恐れさせていたとしても不思議なことでない様に思われる。

この二つの事実からも、歴史の早くから中央政権には知られていた国であったと考えられる。その後、飛騨の匠の集団は、大宝元年(西暦701年)頃から造宮、造都に参画し、奈良・平安との学術、文化の交流を盛んにし、その痕跡は十ヶ寺以上の古代寺院跡に見られる。大和朝廷の律令制の時代から、武家政治が始まる500年間にわたる飛騨から都へ出役した「飛騨の匠」は、延べ4~5万人にも達したと推定されている。

飛騨の中世に関しては郷土史家始め、近年研究成果も多く発表されているが、今日見られる飛騨高山の歴史文化を育んだのは「金森氏六代と幕僚時代」の影響が大きい。この時代が残した文化を、かつて作家の司馬遼太郎が飛騨を訪れた時の感想を著書『街道を行く』で「飛騨美学」という言葉で賞賛しました。

暮らしの手帖の編集者の花森安治氏が「日本人の心の故郷」と紙面で飛騨高山を紹介した事は有名ですが、同じ様な意味合いで司馬遼太郎氏は「飛騨美学」と語りました。金森藩時代の重要なポイントは、初代金森長近が茶道で古田織部、千利休に師事し、当代を代表する茶人であった事です。そして、金森藩二代可重の長男金森宗和が、京都に於いて宗和流茶道を起こした事が、今日に伝わるいわゆる「宗和好み」の文化を高山に根付かせました。「宗和好み」は広い辞苑にも出ている、大切な日本文化を表す言葉の一つです。一例として、室町時代に始まる正式な日本料理「宗和流本膳」が今日でも高山の食文化の中心になっています。この用に茶道の「わび」「さび」の言葉にも代表される日本独特の精神文化、感性が飛騨人の美意識に組み込まれています。

次に元禄5年(1692年)から慶応4年(1868年)までの代官、郡代25代176年間の天領時代の特徴は政治体制が中央集権であり、歴代の飛騨の統治者として江戸幕府譜代の大名格の役人、今で言えば学識・見識のある高級官僚が選ばれていた。これらの代官・郡代がもたらした、行政上の任務だけでなく江戸の学問、文化の伝承者としての役割も、結果として非常に大きかった事は、多くの古文書・史料・祭り行事などに残されており、多くの文人、学者、偉人を生む事になった。

最後に申し上げたい事があります。この様な飛騨人の先人たちの功績が、後世に伝えられる事がなく、今、忘れ去られようとしています。私が今回、本居宣長と田中大秀の関係を調査する過程で、高山市の街の博物館・旧家などに埋もれている貴重な古文書・史料等が、ほんの数人の年老いた民間人の研究家が趣味的に少しだけ研究しているに過ぎない現状を知りました。他の地方都市の一例を上げますと、本居宣長の出身地 松阪市の「本居宣長記念館」では立派な建物だけでなく、若い研究員(学芸員)を育てたり、研究発表、市民への啓蒙も行っています。私も皮肉にも田中大秀の事をこの記念館で教えてもらいました。近くでは、万葉集の編纂者の一人である大伴家持と縁のある高岡市の「万葉歴史館」は、田中大秀の研究もされており学芸員のための地下の研究室、全国からの史料の収集、万葉集に関する図書館の併設など、大学でもないのに日本一の万葉研究所を目指しています。また同じく北陸の福井市には、田中大秀の熱烈な門人であった国学者・歌人の「橘曙覧記念文学館」があります。これらの例と比べると、高山市では地元の文化、学問の研究は史料として保管されているだけで、残念ながら研究されていません。江戸時代の古文書の読み下しが非常に難しいのも一因でしょうが、多く残されている、飛騨人の偉人たちの埋もれている古文書、史料等を掘り起こし、読み取るソフト面の仕事が全く軽視されています。目立った経済効果は無いと思いますが、歴史と文化の飛騨高山と言うのであれば、市民に発表し、伝えて下さい。そして全国に発信して下さい。そのためには、建物などハードの面も必要でしょうが、先人がそうであったように、長い年月を根気よく地道に、情熱をもってやり遂げる学究肌の研究者(学芸員)が必要です。地元がやらなくて誰がやるのですか。ぜひ高山市で採用して下さいを願っています。

奉仕を通じて平和を

# 例会報告

## 新入会員あいさつ

中島 弘人さん

大垣共立銀行 高山支店長



## ●中島 弘人さん

本日より入会させていただきます大垣共立銀行高山支店の中島 弘人です。10月1日付異動で、前任 河尻支店長の公後任として赴任いたしました。よろしくお願ひ致します。

## <ニコニコボックス>

### ●山下 明さん

①ふとんの清水屋 会長 清水喬雄様のご来訪を歓迎します。飛騨の文化について多岐に渡るお話をして頂けるそうです。よろしくお願ひ致します。

②大垣共立銀行高山支店長 中島 弘人 さんが、本日から入会されます。早速SAAの仕事をしていただいています。恐縮しています。

### ●寺田 昌平さん、小田 博司さん

①本日はご多忙の中、ふとんの清水屋 会長 清水喬雄様のご来訪を歓迎申し上げます。卓話を楽しみにしています。

②大垣共立銀行高山支店長 中島弘人さんの入会を歓迎します。

③先週の例会は、皆様方に大変なご迷惑をおかけしました事をお詫ひ申し上げます。

### ●内田 幸洋さん、小森 丈一さん

前 桐生町町内会会長の清水 喬雄 様にはお忙しい所お越しいただきありがとうございます。本日はよろしくお願ひします。

### ●垂井 政機さん、岡田 賛三さん、田中 武さん、小林 勝一さん、脇本 敏雄さん、田近 毅さん

清水 喬雄さんようこそ御来訪下さいました。本日の卓話楽しみにしております。

### ●井上 正さん

・先日ご丁寧にご大下 大圓 さんからのお手紙を頂き、とても有難く読ませて頂きました。また卓話をお聞き出来る事を楽しみに致しております。

・昨日も先週に引き続き、ソフトミニバレーの練習に参加して来ました。今週は自らの意志で参加しましたが、少しずつ体もほぐれ始めた感がいたしております。是非お一人でも多くのご参加をお待ちしております。

### ●下屋 勝比古さん

バスを何とか無事内田さんへ引き継げそうです。日本語が上手で楽しい50日間でした。

### ●米澤 久二さん

連休に焼岳に登って来ました。昨年は前日に腰が痛くなり断念しました。今年はどうにか、こうにか無事下山出来ました。標高差は800mしかありませんが、体重のせいか途中で足がガタガタとなり、何回もつまずきました。いつまで登れるか不安ですが、来年もチャレンジしたいと思います。

### ●田近 毅さん

秋の「ふれあい高山寄席」を今年も11月10日(日)PM6:30から行います。是非お運びください。切符は塚本・田近まで。よろしくお願ひします。



清水様 編著 の

『古代まで遡り日本人の心の根源を考え尽くした「知の巨人」  
本居 宣長  
終生、宣長を師と仰ぎ真心と共に生きた「不世出の飛騨びと」  
田中 大秀  
』

について、例会時のテキストとしてご寄付いただきました。お心遣いに感謝し、会員それぞれが抛出し、ニコニコへ投函しました。

清水様ありがとうございました。

奉仕を通じて平和を